



ナベヅルの保護対策について（平成19年12月定例会）

ナベヅルを守るために、これまで八代の人々をはじめ、市、県、国も様々な対策を講じてこられましたが、残念なことに減少に歯止めがかからず、今日現在の飛来数は過去最低の2家族7羽となっています。

今年も出水市から移送された2羽の保護ヅルが放鳥されましたが、今回こそ成功させなければなりません。飛来ヅルと共に無事、北帰行を果たし、そして再び八代に舞い降りて欲しいと切望しています。

特別天然記念物でもある、県鳥、八代のナベヅルの保護対策は出水市からの移送事業も含め、今後どのような展開となるのでしょうか。農地借り上げ等も含め、自然増羽も加味した中長期的な展望についてご所見をお伺いします。

また、八代地区では、「子ども百人、ツル百羽」をスローガンに、ナベヅルの保護対策と共に、農業振興、集落再生に向けた様々な取り組みをされております。

自然増羽にも結びつく八代の農村環境の整備に対して、指導や情報提供など一層のご支援と、ツルと共に生きる農業従事者の気持ちが、前に向くような積極的な応援をしていただきたいと思います。ご所見をお聞かせください。

【藤井教育長答弁】

八代に渡来するナベヅルの減少には強い危機感を持っており、渡来数回復に向けた、できる限りの努力をしなければならぬと考えています。

放鳥事業は、世界に例のない試みであることから、今後とも成果を検証しながら、継続実施していきたいと考えています。

また、八代の状況を踏まえたツルの安全と餌場が確保されるように、今後とも、地元関係者や調査研究委員会の意見も聞きながら、周南市の取組を支援してまいります。

【松永農林水産部長答弁】

「冬期湛水農法」等により、安心・安全な米づくりの推進を図る取組を、「農地・水・環境保全向上対策」の中で新たに支援することとしています。

今後とも、ツルと人が心豊かに暮らす農業の実現に向けた取組を積極的に支援してまいります。